

第117号

# 慈光

社会福祉法人遠州仏教積善会  
救護施設 慈照園  
静岡県浜松市中区鴨江 3-4-3  
TEL 053-452-3069  
FAX 053-452-3074  
URL <http://jishoen.jp>

## 平成 31 年を迎えて

社会福祉法人遠州仏教積善会 会長 左右田 泰丈

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

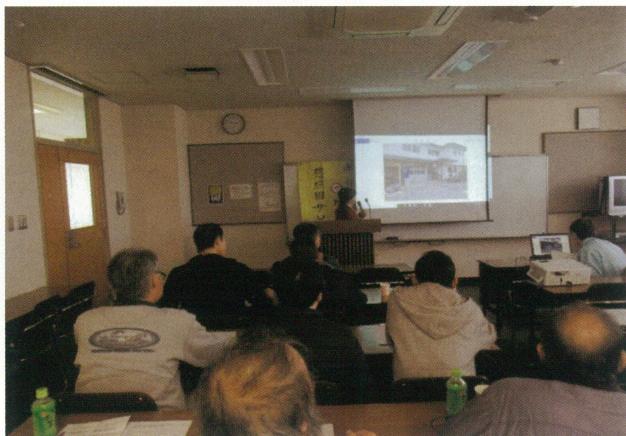
昨年の漢字が「災」でした。日本各地で大雪、大雨、台風、地震と続いたことからこの字が選ばれたのでしょう。慈照園でも台風 24 号の影響で、停電や設備の破損等に見舞われ対応に追われました。

曹洞宗のお経「修証義」に「同事」の文言があります。「自分と他人と違わない」という意味です。他で起こっていることをまるで自分のことのように考えることを心掛けていれば、他で起こった災害を自分のこととして捉え、準備することができます。「備えあれば憂い無し」。各種災害に備えたいものです。

当法人では、本年も救護施設慈照園の健全な経営に取り組むと共に、社会福祉法人に期待される公益的活動として、生活困窮者自立支援制度による認定就労訓練に取り組んでいきます。また昨年受審した福祉サービス第三者評価の結果を今後に活かし、福祉サービス向上に取り組みます。

皆さま方のご健康とご多幸をお祈りします。

## 精神障害者の地域移行と 自立生活の継続を目指して



シピ」を学びました。学習会では退園者がどんな生活をしているのか、就労の様子、休日の過ごし方等を知る貴重な時間になりました。施設入所中の方は、「退園後の生活がイメージできた」「退所後の不安が薄らいだ」との感想が寄せられています。

参加延べ人数は、学生ボランティア・講師含め 124 人と、多くの方に事業の趣旨を理解してもらうことができ、今後の支援の方向性も確認することができました。短期居宅訓練は次号にて報告します。

全国救護施設協議会は、赤い羽根共同募金の助成を受け、「救護施設における精神障害者の地域移行と自立生活の継続支援に関するモデル事業」を募集しました。慈照園はサロン事業と短期居宅訓練の 2 つの事業を応募し、取り組みました。

サロン事業では、施設入所者の退園促進、また退所後も切れ目のない支援を継続することを目的に、慈照園の利用者で地域生活を目指す方や他の救護施設利用者、救護施設退所後地域で生活をしている方も参加し、料理教室や学習会を行いました。

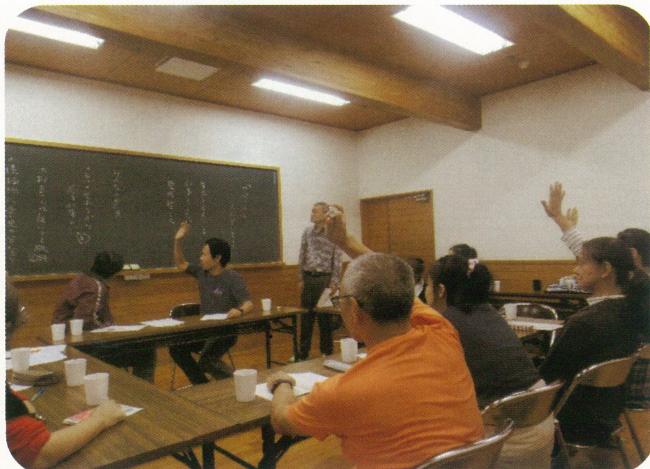
料理教室では、炊飯器で煮物をつくる「裏ワザレ



## 自立ゼミ

10/16~17 の二日間、自立を目指す方の中から希望者を募り、13 名の利用者さんが参加し、島田市野外研修センター「山の家」にて、研修を行ないました。

学習会では、各自が自立するためのテーマを発表し、それを叶えるためには何が必要かを、お互いに言い合い、議論しました。



積極的に取り組めた学習会



広い厨房を借りての夕食作り

自立ゼミでは、食事も自分たちで調理しました。夕食はハンバーグを中心に、バランス良く汁物、サラダ等を配しました。

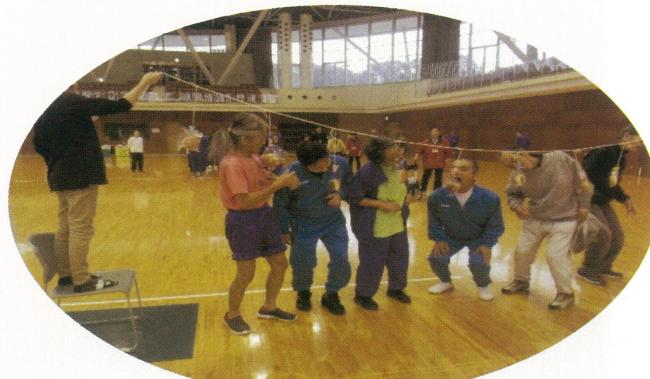
朝食もご飯、パンの主食に、野菜や汁物に加え、前夜の余り物に手を加え、残さないよう工夫して食べました。全員が自然な流れで役割分担し、それぞれの立場や技量をわきまえて動いている姿は、とても嬉しく感じました。今後の生活に生かしてほしいものです。

## 親睦スポーツ大会

11/9 浜松市内 4 つの救護施設による親睦スポーツ大会が、浜北グリーンアリーナにて行われました。

- ① ボール送り
- ② グラウンドゴルフ
- ③ パン食い競争
- ④ 輪投げ
- ⑤ スティックボーリング
- ⑥ お玉でピンポン運びリレー
- ⑦ 玉入れ
- ⑧ 紙ヒコーキ飛ばし
- ⑨ 施設対抗リレー

怪我無く無事に参加できました。一ヶ月の練習の成果にて優勝でき、大喜びでした。

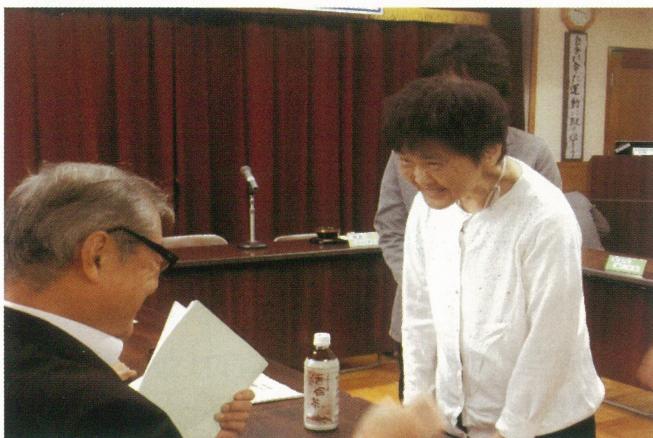


パン食い競争　どの競技よりも必死でしたね



力を合わせてがんばりました！

## 感謝のつどい



とびきりの笑顔でおもてなし

懇談会では、民生委員の方々やご家族の方々から温かいお言葉をいただきました。いつもながら、周囲の方々に支えられて運営させていただいていると直に実感できる機会でもあります。

利用者の皆さんも、緊張したり、失敗したりしましたが、一所懸命おもてなしできました。ありがとうございました。

## わがまちめぐり



喫茶店にてお茶とデザートに舌鼓

12/3 障がい者交流会を実施しました。浜松市出前講座の手話体験講座として、笠原けい子氏、犬塚悦子氏をお招きし、「聴こえない世界を知ろう」のテーマで、聴覚障がいの方の日常生活についてお話しをしていただきました。また、簡単な手話を教えていただきました。

11/3 毎年恒例のふれあいまつりを、今年は「感謝の集い」として開催しました。午前中、展示物（園での生活の様子や、利用者さんの作品等）鑑賞、懇談会、交流会という形でお客様に楽しんでいただきました。利用者さんはこの日のために、それぞれの役割を練習しました。皆さん、いい笑顔でしたね。感謝の気持ちでいっぱいです。



お客様に、歌や日頃の様子を披露しました

10/1 利用者の皆さんがもっとも楽しみにしている行事のひとつ、わがまちめぐりが行われました。班ごとに分かれ、食事や映画、はたまたボウリングやカラオケ、喫茶店巡りなど思い思いに過ごします。施設生活をする方々にとって、自己選択して楽しめる貴重な時間となります。

みなさん、笑顔になれましたね。

## 障がい者交流会



手話を教えていただきました

# こだま 「自利と利他」 鴨江寺住職 建部 仁洋

お大師様はご精来目録の中で、次のように書かれています。

『それ釈経は浩汗にして際なく涯なし

一言にしてこれをたとえばただ二利あり』

仏教は数多くの經典に広大無辺な教えが説かれています。一言で言うならば自利と利他の二利行に尽きるといわれています。

自分の利よりもまず先に他者の利をはかることによって、やがて自分にも利が廻ってくるのです。私たちは皆今日よりは来年へ希望と理想が実現し幸福になっていこうと、努力を惜しまず勤労に励み、家事に精をだして働いているのです。この集団が家庭であり社会であるのです。仏心とは大慈悲心であると説かれています。慈悲心とは思いやりの心であり布施の心であります。自利、利他の心です。自分の嫌なこと、困ったことを他人に押し付けることはできません。誰かの役に立っている、何かの為になっていることは人間らしい生き方の第一歩です。幸福な生活は感謝の生活でなければなりません。感謝の生活とは生かされていることを自覚し、受けた恩に対して報いていこうとすることあります。感謝の生活は恩を知り、それに報いることが大切なお蔭さまの生活であります。自分一人で幸福にはなれません。多くの人々の利他の行に私たちは救われているのです。そして利他の行をすることで生き甲斐を感じさせていただくのです。



## 観音供養

毎月十八日は観音様のご縁日です。導師様にご供養と法話を頂きました。

10/18 学園寺 村松 晃雄師  
11/16 隨縁寺 鶴見 勝円師  
12/18 龍泉寺 白井 竜之師

## 『今後の予定』

1/18 高林寺 猪俣 典孝師  
2/18 明徳寺 山岸 真乘師  
3/15 泉藏寺 真川 悠俊師

※都合により日の変更がある場合があります。ご了承下さい。  
時間は15時からです。

## 苦情解決状況

平成30年10月～12月

		内 容	てんまつ
男性	利用者	一時入所より日も経ち、感じることや考えることもあり、自分の話を聴いてもらいたい。	生活相談会で、第三者委員からの話を聴くことで、話しやすくなった。また、助言をいただき今後の希望について話すことができた。
男性	利用者	入所間もないが、体調が回復ってきており、園での生活、これからのことについて聴いてほしい。	生活相談会で、第三者委員に園での生活、生活歴について聴いていただいた。今後の要望について話し、健康回復について助言もいただいた。

車いす	冬瓜	季節の果物・傘	三ツ矢ミホ子様	【寄付】	ありがとうございます
生命保険協会浜松地区様	活命茶	傘 志（金一封）	匿名希望様	N H K 歳末助け合い様	三ツ矢ミホ子様
トクダ薬局様	安藤 安子様	県共同募金会様	中区県西部民児協様	セラピー協会浜松本部	萩原 裕二様
トクダ薬局様	安藤 安子様	N H K 歳末助け合い様	中区県西部民児協様	セラピー協会浜松本部	萩原 裕二様

お世話になっています

## 【ボランティア】

生け花・茶道クラブ 左右田慧子様  
将棋クラブ 間渕 秀明様  
絵手紙クラブ 鈴木八重子様  
書道・ペン習字 飯田偉久子様

ヨーガクラブ 山内亞紀子様  
健康体操 外出支援 稲垣久美子様  
アニマルセラピー (N) 日本アニマル  
セラピー協会浜松本部 萩原 裕二様

詩吟クラブ 松原 正英様  
季節の果物・傘 三ツ矢ミホ子様  
匿名希望様  
県共同募金会様  
N H K 歳末助け合い様  
中区県西部民児協様